

調査の成果（遺物編）

古墳時代前期 古墳時代前期には土師器（はじき）と呼ばれる素焼きで軟質の土器が用いられていました。土師器は耐熱性に優れており、煮炊きに用いられていました。写真の土器は小型丸底壺（こがたまろぞこつぼ）といい、祭祀用の小さな壺です。他にも、高坏（たかつき）や甕（かめ）、壺（つぼ）などが出土しています。棗玉（なつめだま）は旧河川から見つかりました。石製で、大きさが6mmほどの小さなものです。高野遺跡の近くにある日向山古墳（ひつこうやまこふん）の副葬品が流れてきたのかもしれませんが。

古墳時代後期 古墳時代中期になると朝鮮半島から須恵器（すえき）という硬質の土器が伝わります。須恵器は当初、祭祀用の土器として用いられていました。この頃になると、日用雑器としても用いられるようになります。写真のものは、左から、坏身（つきみ）、坏身、坏蓋（つきぶた）、甕（はそう）です。坏は蓋つきの日用食器で、古墳時代後期のものは底が丸く、蓋も丸みを帯びています。甕は酒などの液体を入れるもので、前面の小さな丸い穴に竹筒などを入れ、注ぎ口にしていたようです。

奈良時代 奈良時代においても須恵器・土師器共に用いられていました。しかし、古墳時代のものと比べて形状が変化しています。坏身は底部が平坦になり、上端面の蓋受けがなくなります。また、蓋も平たくなっています。

また、ほかに土馬が出土しています。土馬は古墳時代から平安時代にかけて作られました。多くは溝や川、井戸のような水に関わる遺構から見つかります。高野遺跡のものも溝から出土しました。水に関わる祭祀に用いられたと考えられています。

まとめ

今回の調査成果を、以下のとおりまとめておきます。

- ①野洲川左岸扇状地における古墳時代前期～後期の集落の一端を捉えることができました。
- ②今回見つかった倉庫は古代東海道に沿った建物であった可能性があり、古代東海道周辺の状況、時期とルートを考えるうえで貴重な成果と言えます。

今後の調査で道路遺構が見つかることで、具体的な古代東海道の実態解明が期待されます。令和2年度調査においても古代東海道推定位置の調査を予定していますので、今後、明らかになるかもしれません。



古墳時代前期の土器



古墳時代後期の土器



奈良時代の土器



出土した土馬の頭部

棗玉

レトロ・レトロの展覧会 2020 特別陳列1 東海道を探る～道沿いに集う人びと～

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



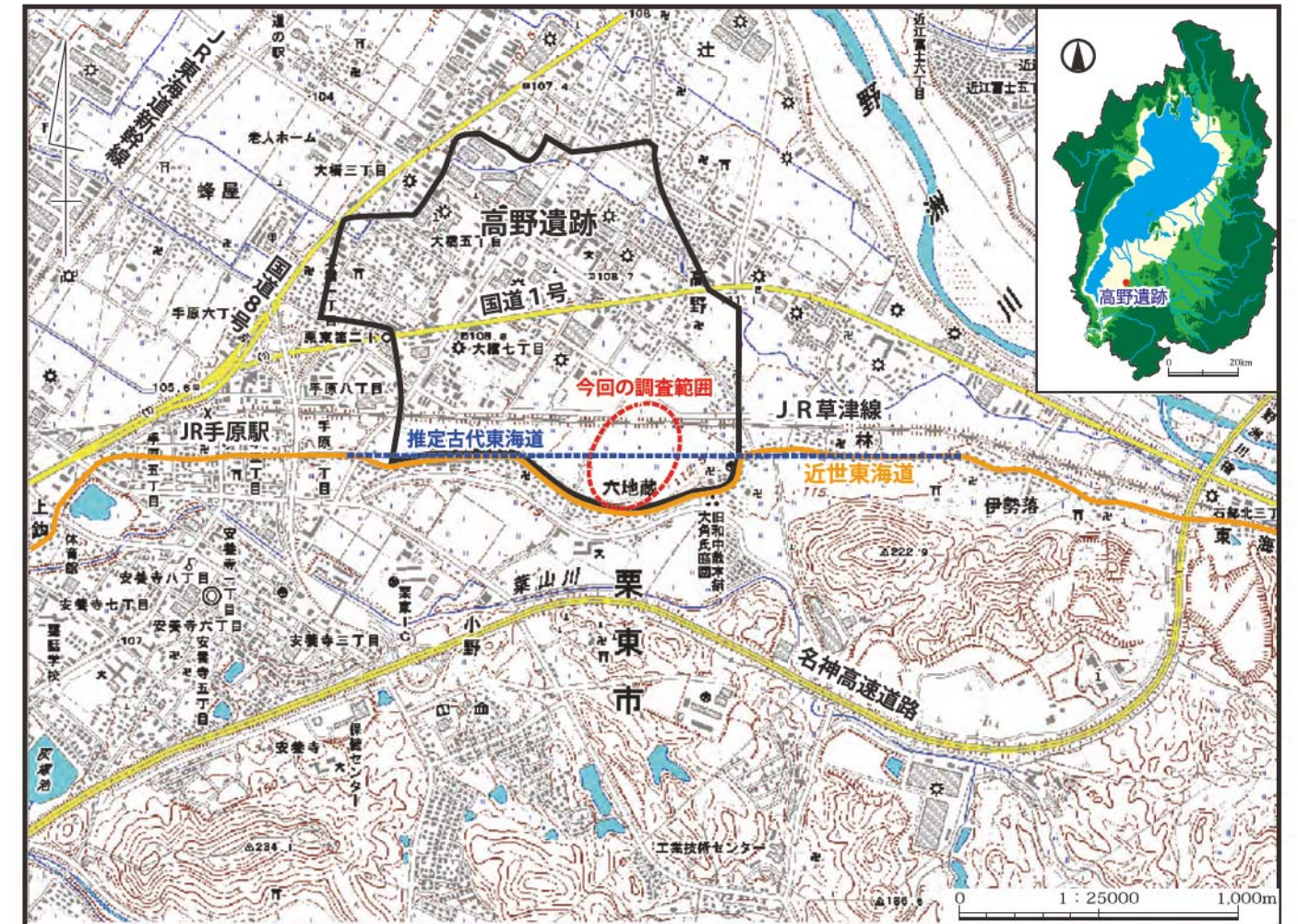
公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

はじめに

遺跡の概要 高野遺跡は栗東市高野・辻・六地藏に所在する遺跡です。野洲川の左岸扇状地に位置していません。昭和57年（1982年）の宅地造成に伴う調査が実施されて以来、複数回の発掘調査が実施されていて、縄文時代前期（約7,000～5,000年前）から近代にかけての遺構・遺物が発見されています。特に古墳時代（3～6世紀、約1,800年前～約1,500年前）には県内でも有数の大規模集落の広がりが確認され、古墳時代前期を中心とした時期の集落が形成されていました。

調査の経緯 高野遺跡の範囲内において、滋賀県大津・南部農業農村振興事務所により六地藏地区ほ場整備工事が計画されたため、それに先立つ発掘調査を平成30年度から着手し、本年度も調査を継続中です。

今回の展示 今回の「レトロ・レトロの展覧会2020」では、令和元年度調査で見つかった古墳時代の竪穴建物や、奈良時代の倉庫を中心とした遺構と、出土した遺物について紹介します。また、高野遺跡南方には近世の東海道があり、遺跡内には古代東海道が推定されています。令和元年度調査では、古代東海道の推定位置付近で調査を行いましたので、その成果も紹介します。



高野遺跡の範囲（黒枠）と今回の調査範囲（赤色破線）

調査の成果 (遺構編)



古墳時代後期の竪穴建物群

竪穴建物 15棟が見つかりました。大半は一辺5m程の方形のものですが、一辺約7mのものが1棟検出されました。古墳時代前期から中期前半と考えられるものは中央付近に炉を持ち、古墳時代後期のものは造りつけカマドを持っていますが、古墳時代中期のものには炉と造りつけカマドの両方を設けた建物も確認されています。



古墳時代中期の竪穴建物

東海道 古代東海道は奈良～平安時代に整備された七道の一つです。道としての開通は早く、日本書紀によると、崇神天皇(3～4世紀頃)の頃には開通していたと伝わります。近世東海道は、慶長6年(1601年)に定められたものです。下の図にある古代東海道推定ラインは、歴史地理学の研究成果から推定されたラインとなります。



奈良時代の掘立柱建物

J R 草津線

古代東海道南側溝か



奈良時代の倉庫

掘立柱建物 高野遺跡南端部付近には古代東海道が東西方向に存在したことが推定されています。その推定ラインに近接する付近で倉庫が確認されました。倉庫は多くの物資を搬入できるように荷重に耐える建物の構造として、総柱という柱を立てる手法が用いられています。建物の方向はほぼ正南北方位を指向します。南北約4m×東西約5mの掘立柱建物で、平面積は12畳程あります。奈良時代末のものと考えられます。

古代東海道推定ライン



古墳時代前期の河川出土の土器



奈良時代の溝と河川

溝 古墳時代後期末から鎌倉時代にかけてのものが複数見つかっています。幅20cm～2m程、深さ5～60cm程と、規模はさまざまです。平安時代前半までのものは、ほぼ南北または東西方向に、鎌倉時代のは現代の水田と同じ向きに延びています。また、倉庫の約2.5m北側で見つかった2条の溝は、倉庫と向きをそろえていました。古代東海道の南側溝の可能性がります。

近世東海道

凡例
■ 竪穴建物
■ 掘立柱建物
■ 旧河川・溝
S=1:2000